

私の車いす生活

～中央リハビリテーション部・社会生活講座より～

障害者の自立生活に向けた福祉制度、福祉用具活用術

社会福祉士 鈴木 理恵子

これまでの経緯

中学2年時に交通事故により脊髄損傷。同事故で両親他界。病院併設の養護学校へ転校。
 高等部3年時、ダスキン障害者リーダー米国派遣事業にて1年渡米し、公立高校での生活実体験。
 大学2年時にはYMCAの留学交換プログラムで1年ベルギーに滞在。欧州全土を2ヶ月かけて車いすで1人旅する。
 帰国後、大学生活中、社会福祉法人 AJU自立の家のボランティアやアルバイトとして関わる。
 大学(社会福祉学専攻)卒業後、市内総合病院 医療ソーシャルワーカー 勤務。
 仕事の傍ら、小、中学校生、教員へ総合学習の生の福祉教材として講師活動。
 結婚、妊娠、出産を経て、現在、AJU自立の家 デイサービス担当 勤務。

講演内容

私は脊髄を損傷し、一種1級の障害者です。障害者総合支援法の区分では3の判定枠で月に家事支援(ホームヘルプ)62.5時間と身体介助8.5時間程もらい、ヘルパーの援助をうけながら家事、育児を行い、仕事との両立を保っています。住宅は、障害者住宅改造補助金による住宅改造を行いました。具体的には、玄関の段差にスロープ、浴室の扉を折り戸の外開き、洗い場にサイズ特注(高さや分割可能にした)のすのこ、ベランダにスロープ等設置しました。

移動、交通では、自動車改造補助金支給による手動装置車へ改造と自費ではありますが、車いすを車のルーフに格納できるリフトをつけています。また、警察署で駐車禁止除外指定をうけたり、簡易電動車いすで子供達とともにでかける際は、リフトカー利用の登録をして、状況で使い分けをしています。

生活に必要な用具は、日常生活用具の給付を受け、入浴補助用具(バスボードや入浴踏み台など)、特殊マット(体位変換保持用ビーズクッション等)、トイレ手すり、シャワートイレなど揃えています。補装具の給付では、手動車いす、ROHO®クッション、座位保持バックレストなどを受けています。その他、障害の程度や生活の状況で必要物品もかわります。詳細は区役所で障害者福祉のしおりをもらい、熟読される事をおすすめします。給付限度額や耐用年数、使用感もありますので、これから紹介する各種相談窓口、当事者団体を活用して、



自分にあった用具や必要な制度を見つけてください。各区の障害者地域生活支援センター、なごや福祉用具プラザ、脊髄損傷者連合会、頸髄損傷者連絡会、車いすテニス、バスケットチームなど。同じ当事者から使い勝手を聞いたり、実際に試させてもらったり、制度についてきいてみると、多くの情報収集が自立生活を充実させるための重要な鍵です。

心ゆたかに楽しく障がい者?!生活をおくるために必要なモノは人とのつながりです。同じ障害を持つ仲間作りをして人との輪をひろげ、車いすで遊びにいけるバリアフリーの情報やバリアフリーでなくてもこんな工夫や行動をしてアクティブに過ごしているという情報を仕入れることができます。また、人のつながりで就労、仕事につながっていく事もありえます。仲間以外の情報源として、区役所で配布される障害者のしおりから自分が受けられる特典を探してみましょう。

できないことをなげくのではなく、できないことはどんな物、者(人)を使えば可能に近づくのか、何が自分に残され、できるのかを考えてみましょう。また、障害を逆手にとって、だれにとっても住みやすい街作りのオピニオンリーダーとして行政、社会に働きかける役割があります。具体的なソーシャルアクションから社会の変革や一般の人々の意識改革に携われる事を実感して、生きている喜びを見いだしてみえる方も多くいます。一度は死にかけた命、通常では経験できない事を体験した事を自信に、かつ、なんとかなるの精神で楽しく障害をもったセカンドライフを生きてゆきましょう。

*** 中央リハビリテーション部・社会生活講座とは ***

入院患者さん向けの生活支援応援会。社会復帰して活躍されている脊髄損傷者の方に、地域社会での生活について情報提供してもらえばサポートの場。患者さん・ご家族の元気力アップと悩み解決に役立つ講座となるよう活動しています。

★中部ろうさい病院のホームページで、〈病院の情報〉〈フィリア・レター〉〈ろうさい病院つうしん〉がご覧いただけます。携帯電話からもアクセスできます。どうぞ、ご利用ください。